

学校だより

9月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄

令和二年 八月二十五日



グローバルな社会で生きる子供たちを育てる

校長 吉野達雄

この夏は、本来ならばオリンピック・パラリンピックで大いに盛り上がるはずでしたが、残念ながらそれは来年の楽しみになってしまいました。オリンピック・パラリンピックは、これまで多くの人たちに夢や希望、感動を与えてきました。そして、多文化・多言語・多民族の世界の人たちが平和に暮らし共生していくことの必要性を教えてくださいました。学校では、引き続きオリンピック・パラリンピックを契機とした国際教育を進めていきます。

【自分以外の世界を知ることグローバルのひとつ】

五年生は、総合的な学習の時間で、パラリンピックを通して障害者理解を深めています。障害を乗り越え、世界に挑戦する人たちの精神力や努力は想像を絶するものであり、私たちに勇気を与えてくれます。また、六年生は、様々な国の文化や特色などを学び、世界の広さを感じます。私たちの身近にはまだまだ知らない世界があるはずです。

【学校の英語教育で何を学ぶか】

港区は、これまでも他の自治体と比べ、英語教育に力を入れてきました。英語をツールとしたコミュニケーション力をさらに向上させるにはどうしたらいいでしょう。学びは積み重ねておりますので、活用できる場面を増やし実践していくことが重要になるのです。学校はもちろんですが、ぜひ、家庭でも一日五分でもいいので、英語で会話する時間を作ってほしいと思います。学校と家庭で連携した英語教育を進めていきましょう。

新しい生活様式の中の学校生活

今年度は運動会、遠足、社会科見学などの行事がほとんどなくなっていました。そこで、土曜授業日を活用して、学年ごとにはなりますが、○体育学習発表会・・・かけっこやダンスなどの表現活動 ○総合的な学習の時間や生活科などで学習したことの発表会などをお見せします。詳細は、後日お知らせします。

避難訓練について

生活指導主任 藪田 真澄

本日、二学期が始まりました。「コロナ禍」の中であり、いつもとは異なる夏休みだったのではないでしょうか。そのような中でも、子供たちの元気な姿を見ることができ嬉しいです。

学校では、毎月、様々な想定での避難訓練を行っています。地震、火事・津波などの災害が起きた場合に、どのように自分の身を守るのか、どのように、どの場所に避難するのかを指導しています。

東日本大震災の大津波が東北地方沿岸部に甚大な被害を及ぼした際に、岩手県釜石市内の生徒・児童の多くが無事でした。これは、日ごろの防災教育の賜物と言われています。日常の避難訓練の大切さを感じます。教員も児童も、毎月行っている様々な想定での避難訓練に真剣に取り組み、実際に災害が起きても、冷静な判断で行動できるようにしたいです。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、全校で一か所に集合する避難訓練はできませんが、動画・映像を用いて、命を守るためにどのような行動が必要なのかを児童と確認しています。引き渡し訓練は、一年生のみを対象として実施します。一学期末に配布いたしました「東京マイ・タイムライン」ですが、災害時等の緊急避難をご家族で考える冊子となっております。ぜひご活用ください。いざという時のために、ご家庭での身の守り方を話し合っていたいただきたいと思えます。

二学期もどうぞよろしくお願いいたします。